

I 常設展示

1 本館

(1) 常設展示

江戸東京博物館5・6階の常設展示室(8,934㎡)において、定期的に展示替えを計22回行った。常時約2,000点の資料を展示するとともに、学芸員の研究成果を反映させた企画展や常設展示各コーナーで開催する特集を実施している。その際、展示資料の管理、温湿度等展示環境の維持を行っている。さらに、常設展の賑わい・楽しさを演出した「えどはく寄席」、テーマ性を持って展示解説をする「ミュージアムトーク」を定期的に開催している。また、外部機関と協力し、企画展「ザ・脚本～放送作家たちの80年～」 「発掘された日本列島2010」展、「徳川御三卿」展を開催した。

[常設展観覧者実績]

区分	平成22年度(A)	対前年比(A/B)	平成21年度(B)
一般	324,120人	97.5%	332,494人
学生	27,304人	92.4%	29,562人
高校生、都外中学生	68,998人	124.0%	55,662人
65歳以上	87,449人	113.5%	77,039人
無料観覧者 (小学生、都内中学生、 教育活動、視察)	279,125人	95.4%	292,601人
合計	786,996人	100.0%	787,358人
1日あたり観覧者数	2,641人	105.6%	2,500人

※平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う修繕工事により、3月12日から4月30日まで臨時休館となったため、平成22年4月1日から平成23年3月11日までの実績である。

(2) 常設展示リフレッシュ

開館以来、大きな変更・更新をしていない常設展示について、これまでの問題点や課題、来館者の要望などを踏まえ、全体的なリニューアルを行い、より魅力ある常設展とし、江戸東京の歴史と文化発信の拠点としていくため、東京都が設置する「江戸東京博物館常設展示リニューアル事業検討会」を開催し、実施計画案作成の準備を始めた。館内では、組織横断的なPTを編成し、全館をあげて検討を進め、平成21年度に策定した「東京都江戸東京博物館常設展示リフレッシュ事業基本構想」の具現化作業を行った。

○ 常設展示リニューアル事業検討会

第1回 平成22年11月30日 旅行業関係者との協議

第2回 平成23年 3月28日 学校関係者との協議

(3) 企画展

「展覧会等企画検討委員会」答申に基づき、東京都江戸東京博物館のミッションに沿った企画展を7回実施した。

① ザ・脚本～放送作家たちの80年～

会期 平成22年4月6日(火)～18日(日)

会場 5階 第2企画展示室

内容 日本放送作家協会が所蔵する貴重な脚本を一同に展示する企画展。

今回の企画展は、草創期のラジオ・テレビ脚本から最近の「坂の上の雲」まで、

脚本によって時代を振り返った。また脚本という記録資料の保存の重要性を訴える機会となった。

② 市民からのおくりもの 2010—平成 21 年度収集 新収蔵品から—

会 期 平成 22 年 4 月 24 日（土）～5 月 26 日（水）

会 場 5 階 第 2 企画展示室

内 容 東京都江戸東京博物館では、江戸東京の歴史と文化を守り伝えるため、広く市民に寄贈を呼びかけて資料を収集している。寄贈者への感謝を表すると同時に、博物館の収集活動に関心を持ってもらうため、平成 21 年度に収集した資料を紹介した。

③ 発掘された日本列島 2010

会 期 平成 22 年 6 月 5 日（土）～7 月 25 日（日）

会 場 5 階 第 2 企画展示室

内 容 毎年開催している最新の発掘調査の成果を公開する展覧会。近年の発掘調査の中から、特に注目される出土品を中心に紹介するとともに「埋蔵文化財保護」に対する理解を深めた。地域展は「古代武蔵国の郡衙」を開催した。

④ 東京復興 ～カラーで見る昭和 20 年代東京の軌跡～

会 期 平成 22 年 8 月 4 日（水）～9 月 26 日（日）

会 場 5 階 第 2 企画展示室

内 容 本展覧会は、終戦から高度成長期まで、わずか十数年でめざましい復興を遂げた東京のあゆみについて、当時の地図や映画からみる「都市計画」と、日本に滞在した人々が撮影したカラースライドや映像などからみる「都市生活」の両面から紹介した。

⑤ 徳川御三卿

会 期 平成 22 年 10 月 5 日（火）～11 月 14 日（日）

会 場 5 階 第 2 企画展示室

内 容 従来展覧会でとりあげられることが少なかった田安、清水、一橋の 3 家の歴史と各家伝来の名宝を紹介する企画展。これまであまり知られていなかった御三卿、三卿の役割や将軍家とのつながり、御三家との相違などについて紹介した。

⑥ 林芙美子と東京放浪

会 期 平成 22 年 11 月 23 日（火）～平成 23 年 1 月 10 日（月）

会 場 5 階 第 2 企画展示室

内 容 震災を機に大きく変貌をとげる東京の街の様相や風俗を紹介する企画展。単身東京で暮らす女性の走りとも言われた林芙美子の作品と人生を通じ、単身生活者が増加する東京の現在と未来についても考え、機会を提供した。

⑦ 140 年前の江戸城を撮った男 横山松三郎

会 期 平成 23 年 1 月 18 日（火）～平成 23 年 3 月 6 日（日）

会 場 5 階 第 2 企画展示室

内 容 幕末期に渡来した写真術を習得し、多様な芸術表現を試みた類い希な人物、横山松三郎（1838～84 年）の業績を紹介した初めての本格的な企画展。館蔵の写真資料を軸として、当時の最先端技術によって記録された幕末から明治の日本を垣間見ようとした展覧会として高く評価され、マスコミにも大きくとりあげられた。

⑧ 芝 増上寺 ～秀忠とお江の寺～

会 期 平成 23 年 3 月 15 日（火）～31 日（木）

*全体の会期は、平成 23 年 3 月 15 日（火）～5 月 29 日（日）

会 場 5 階 第 2 企画展示室

内 容 徳川将軍家の菩提寺であり、2011 年の NHK 大河ドラマの主人公で、2 代将軍秀忠の正室となったお江が眠る寺としてもひろく知られている増上寺が所蔵する寺宝の数々を一度に公開する展覧会。ほぼ同時に開催される特別展「五百羅

漢 増上寺秘蔵の仏画」の関連企画として開催。

※ 企画展⑧「芝 増上寺 ～秀忠とお江の寺～」は、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、開催を延期することとなり、平成24年3月27日～5月27日に実施。

(4) 野外収蔵（分館）

「江戸東京たてもの園」において、現地保存が不可能な文化的・歴史的価値の高い建造物を移築・復元し、保存・展示する。さらに、復元建物の内部では生活民俗資料の展示を行うとともに、町並みを再現・創造し、優れた建築文化の理解に役立つ展示を行う。
また四季折々の行事や遊び、伝統工芸の実演を行う。

〔入園者実績〕

区 分	平成22年度(A)	対前年比(A/B)	平成21年度(B)
一 般	84,124人	91.3%	92,150人
大学生・専門学校生	8,809人	101.7%	8,659人
高校生、都外中学生	2,230人	88.7%	2,513人
65歳以上	23,103人	88.9%	25,996人
無料観覧者 (小学生、都内中学生、 教育活動等)	94,768人	86.2%	109,927人
合 計	213,034人	89.0%	239,245人
1日あたり観覧者数	698人	91.0%	767人

※ 平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴い、3月12、13、15日は臨時休館となった。

① 情景再現事業

情景再現事業の一環で、季節ごとの催しとして、春「子どもの日イベント」、夏「下町夕涼み」、冬「はらっぱ大会」などの各イベントを行った。

・子どもの日イベント

内 容 買い物ゲーム、泥団子づくり、チャンバラ、兜・風車づくりなど、昭和の子供たちの遊びを再現。

期 間 平成22年5月4日（火・休）・5日（水・祝）

会 場 園内全体

参加者数 6,582人（当日来園者）

・七夕折り紙教室

内 容 茅葺き民家で折り紙づくりや短冊に願い事を書き込むなどの体験講座。また紙芝居なども実施。

期 間 平成22年6月26日（土）・27日（日）

会 場 西ゾーン 吉野家

参加者数 102人（参加者）

・小暑のつどい

内 容 朝顔、ほおづきの鉢植えの販売や浴衣の展示などで初夏の風情を再現。

期 間 平成22年7月3日（土）・4日（日）

会 場 園内ビジターセンター前及東ゾーン子宝湯など

参加者数 2,051人（当日来園者）

・下町夕涼み

内 容 盆踊り、寄席、夜店などによる夏の夕涼みの風情を再現

- 期 間 平成 22 年 7 月 31 日（土）・8 月 1 日（日）
会 場 園内全域
参加者数 8,722 人（当日来園者）
- ・体験！発見！職人さん
内 容 東京の伝統工芸士を招いて、体験や見学をする。
期 間 平成 22 年 10 月 2 日（土）・3 日（日）
会 場 東ゾーン
参加者数 2,380 人（当日来園者）
- ・クリスマスリースづくり
内 容 園内の樹木を使ってクリスマスリースをつくる体験講座
期 間 平成 22 年 11 月 20 日（土）・21 日（日）
会 場 ビジターセンター、田園調布の家
参加者数 32 名（当日参加者）
- ・正月飾りづくり
内 容 藁を使った注連縄をつくる体験講座
期 間 平成 22 年 12 月 11 日（土）・12 日（日）
会 場 東ゾーン プレハブ
参加者数 113 人（当日参加者）
- ・正月遊び
内 容 書き初め、餅つきの実演など正月ならではの催しを実施。
期 間 平成 23 年 1 月 8 日（土）・9 日（日）
会 場 園内全体
参加者数 3,296 人（当日来園者）
- ・はらっぱ大会
内 容 ベーゴマ大会、チャンバラ大会、足湯、いろりでの湯茶のサービスを実施。
期 間 平成 23 年 2 月 12 日（土）・13 日（日）
会 場 東ゾーン はらっぱ
参加者数 2,176 人（当日来園者）
- ・春先キモノ日和
内 容 「和の装い」をテーマに着物の着付けサービスやふろしき体験講座、邦楽コンサート、着物販売などを行う。
期 間 平成 23 年 3 月 19 日（土）・20 日（日）
会 場 園内全体
参加者数 1,643 人（当日来園者）
- ・伝統工芸の実演
江戸東京に残る伝統工芸の実演を行った。
内 容 桐箆笥、江戸扇子、鋳工芸、竹工芸、東京仏壇、木工（表具）、漆工芸、木目込み人形、江戸独楽、村山大島紬、東京手描友禅、江戸鼈甲、江戸木彫刻、江戸象牙彫金、つりしのぶ、甲冑製作、刀剣研磨、和裁、籐工芸
期 間 平成22年4月～平成23年3月のうち24日間
会 場 江戸東京たてももの園 植村邸、川野商店他
観覧者数 当日入園者（27,808人）
- ・綱島家年中行事
かつての農家の年中行事を再現。
内 容 梅干しづくり、梅の土用干し、十五夜飾り、十三夜飾り、干し柿、大根干し、小正月・繭玉飾り、節分
期 間 年8回 平成22年4月～23年3月のうち 66日間

会 場 江戸東京たてももの園 綱島家

② まちづくり

・まちづくり計画

下町中通りを中心に臨場感あふれる街並みとなるよう修景計画を立案、実施。ボランティアによる鉢植えを中心とする植栽、カンバン、ハリガミの掲示を実施した。

・田園調布の家（大川邸）にてピアノ演奏 毎月最終日曜日

③ 学校連携事業

「藍の育成と藍染め体験」「昔のくらし体験」「ひじろっ子（子どもボランティア）」「教員研修」「教員初任者研修」「校外学習」「職場体験」を実施した。

・藍染め体験

建染めを行い、染色体験をした。

参加校 17校、875人

・昔のくらし体験

園内茅葺き民家内などで、石臼での粉ひきや火鉢体験、昔の道具探しなどを実施した。

昔暮らし体験・藍染め体験70校5,299人

・子どもボランティア「ひじろっ子」

夏休み期間中に、小学生の「小さな社会貢献」として茅葺き民家の掃除、民家の解説、独楽や竹馬などの遊びの指導、小金井公園桜守とともに桜の調査などを行った。

また、イベント時にはボランティアとして園の事業を支援した。

参加人数 105人

・教員研修

小金井市、国分寺市、小平市、西東京市等の教員に対し、学校連携での活用方法等の研修を行った。

参加人数 60人

・教員初任者研修

小金井市、小平市の教員初任者に対して、3日間の学校外活動（ボランティア活動）として、当園ボランティア活動に体験参加した。

参加人数 15人

・職場体験・職場訪問

中学生が職場を訪れ、体験やインタビュー等により、仕事について学んだ。

参加人数 9校、16人

④ 子ども居場所作り「武蔵野えどまる団」

文部科学省が推進している「地域子ども教室推進事業」の一環として始まった、“遊び”を軸にし、江戸東京たてももの園のボランティアや近隣のサークル、大学生などの地域諸団体と連携し、〈子どもの居場所〉作りとして下記の活動を行った。

[内 容]

指令 66	平成 22 年	4 月	お子さま玩具交換会
指令 67		5 月	風雲えどまる城～王国武芸大会～
指令 68		6 月	開催！えどまるカップ
指令 69		7 月	王国けんちくフェスティバル
指令 70		8 月	ガンガン THE 盆踊り V
指令 71		9 月	風雲えどまる城～夏の陣～
指令 72		10 月	えどまる王国大運動会
指令 73		11 月	落ち葉プール
指令 74		12 月	風雲えどまる城～決戦小出ヶ原の巻

指令 75	平成 23 年	1 月	王国新年祝賀祭 大カルタ大会
指令 76		2 月	風雲えどまる城～冬の陣～
指令 77		3 月	春先えどまる団日和～夢のダンボールハウスづくり～

⑤ その他事業

・ミュージアムトーク

毎月 1 回（第 4 土曜日）と特別展開催中に随時実施。

学芸員、研究員による復元建造物や特別展について解説した。

・ビジターセンターの導入展示

-第 5 回小金井桜今昔写真展

平成 22 年 4 月 6 日（火）～18 日（日）

観覧者数 572 人

-温故知新小金井公園今昔写真展

平成 22 年 4 月 20 日（火）～5 月 9 日（日）観覧者数 546 人

-第 8 回桜写真展

平成 22 年 5 月 11 日（火）～23 日（日）観覧者数 505 人

-小金井の四季と観光写真展

平成 22 年 7 月 21 日（水）～8 月 1 日（日）観覧者数 559 人

-第 31 回小金井薪能写真展

平成 22 年 8 月 24 日（火）～29 日（日）観覧者数 108 人

-小金井公園野鳥の会写真展

平成 22 年 10 月 19 日（火）～11 月 7 日（日）観覧者数 616 人

-たてもの園ボランティアスケッチ同好会作品展

平成 22 年 11 月 16 日（火）～12 月 3 日（金）観覧者数 626 人

-第 1 回～第 8 回小金井公園・江戸東京たてもの園桜写真展（上位入選作品展）

平成 23 年 3 月 15 日（火）～4 月 3 日（日）観覧者数 630 人（3 月末日現在）

・園内でのコンサート

-前川邸サロンコンサート

平成 22 年 5 月 30 日（日）参加者数 40 人

-朗読と篠笛のつどい

平成 22 年 8 月 22 日（土）当日入園者 65 人

・その他

-たてもの園昆虫教室

前期：平成 22 年 8 月 6 日（金）～8 日（日）、10 日（火）、11 日（水）

参加者数 138 人

-小金井市市民交流センター開館イベント「日本の音、江戸の粋、再発見」

平成 22 年 9 月 26 日（日）参加者数 357 人

-東京大茶会 2010

平成 22 年 10 月 10 日（日）・11 日（月・祝）入園者数 9,952 人

-ふれあいこどもまつり「親子で楽しむ落語会」

平成 22 年 11 月 3 日（水・祝）参加者数 219 人

-夜間開園ライトアップ

平成 22 年 9 月 25 日（土）・26 日（日）入園者数 2,631 人（16 時以降は 404 人）

-紅葉とたてもの園のライトアップ

平成 22 年 11 月 26 日（金）～28 日（日）参加者数 5,413 人（17 時以降は 1,885 人）

-万徳旅館・大和屋本店（乾物屋）上棟式

- 平成 22 年 11 月 27 日（土）入園者数 2,107 人
-江戸東京野菜で地域まるごとまちおこし（住宅総合研究財団との共催）
平成 23 年 3 月 13 日（日） ※ 東北地方太平洋沖地震による休園のため、開催中止
-たてもの園フェスティバル
平成 23 年 3 月 28 日（月）入園者数 3,592 人

（5）展示企画

① 特別展

・多摩の酒蔵

期 間 平成 22 年 4 月 1 日（木）～5 月 30 日（日）

*全体の会期は、平成 22 年 3 月 20 日（土）～5 月 30 日（日）

内 容 多摩地域の酒造りの歴史をふりかえるとともに、酒蔵を地域文化の担い手ととらえ、その役割を見直した。

入園者 59,151 人（全会期では 71,268 人）

・けんちくのしくみ

期 間 平成 22 年 6 月 19 日（土）～9 月 5 日（日）

内 容 世界のさまざまな建築、日本独特の建築物、建築物の構造、建物をつくる職人などにスポットをあて、楽しくわかりやすく建物の魅力を紹介した。

入園者 36,364 人

・江戸東京たてもの園収蔵品展

期 間 平成 22 年 9 月 25 日（土）～12 月 12 日（日）

内 容 江戸東京たてもの園が武蔵野郷土館から引き継いだ考古資料を中心に、武蔵野の歴史をふりかえった。ギャラリーでは収蔵資料（小澤一蛙収集資料）を 12 月 26 日まで展示した。

入園者 58,508 人

・武蔵御嶽神社と高尾山薬王院

期 間 平成 23 年 1 月 15 日（土）～3 月 31 日（木）

*全体の会期は、平成 23 年 1 月 15 日（土）～4 月 10 日（日）

内 容 武蔵御嶽神社と高尾山薬王院の歴史をふりかえるとともに、多摩や江戸の人々との関わりなど、御岳山と高尾山の歴史と魅力を紹介した。

入園者 33,795 人（3 月末日現在）

② 旧武蔵野郷土館資料の公開

・文化財ウィーク

-旧武蔵野郷土館資料の公開

期 間 平成 22 年 10 月 30 日（土）～11 月 7 日（日）

展示資料 下布田遺跡出土 土製耳飾（国指定重要文化財）

茂呂遺跡出土 ローム層標本（東京都指定重要文化財）

-旧自証院霊屋（東京都指定有形文化財）

II 特別展示

「3T戦略」(Target 対象入館者、Timeliness 時宜、Top of sales point 目玉資料)のもと、時代やジャンルなどバラエティー豊かなラインナップの特別展を開催し、新たな来館者層の開拓を目指した。

また、日頃の調査研究の成果と充実した収蔵品を紹介した特別展では、江戸博の独自性をアピールすることができた。運営面では、関連事業やタイアップ企画の実施、オンラインチケットの販売拡充、協力金方式による収入率アップなど、コスト意識を踏まえて事業を推進した。

平成22年度の特別展入館者数は、延べ231日間の会期に計446,609人の観覧者を迎えることができた。

1 特別展 チンギス・ハーンとモンゴルの至宝展

期 間 平成22年4月1日（木）～11日（日） 延べ10日間
*全体の会期は、平成22年2月2日（火）～4月11日（日） 延べ60日間

会 場 1階 企画展示室

主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、産経新聞社、
テレビ朝日、東映

後 援 中国大使館、板橋区文化・国際交流財団、日本モンゴル協会
協 力 中国・内モンゴル博物院、日本航空

企画制作 東映

内 容 チンギス・ハーンが治めた広大な領土から発見された黄金の装飾品や服飾、生活
用品を中心に彼を特定する資料を交え、モンゴルの創世記から帝国成立までの様相
を明らかにした。多くの謎を秘めたチンギス・ハーンの生涯とモンゴル帝国を大規
模でかつ本格的に紹介する展覧会を、初めて実施した。

観 覧 料 一般1,300円 大学・専門学校生1,040円
小中高生・65歳以上650円

入場者数 10,672人（1日平均 1,067人）
*会期全体では、59,636人（1日平均 993人）

2 特別展 2010年NHK大河ドラマ特別展 龍馬伝

期 間 平成22年4月27日（火）～6月6日（日） 延べ38日間

会 場 1階 企画展示室

主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、NHK、
NHKプロモーション

協 賛 日本写真印刷、ハウス食品、三井住友海上

内 容 坂本龍馬は、幕臣勝海舟の門弟となり航海術を習得した後、長崎で貿易会社を兼
ねた政治結社・亀山社中を立ち上げ、海援隊を組織した。そして対立していた薩摩
藩と長州藩の間を調停し、薩長同盟の締結に尽力、さらに徳川慶喜の大政奉還を画
策し、明治維新を大きく推し進める原動力となるが、慶応3年（1867）、何者かに
暗殺された。本展では龍馬の写真原板や遺品・書簡類、幕末の騒乱を伝える歴史資
料などにより、彼の波乱に満ちた生涯を浮き彫りにした。

観 覧 料 一般1,200円 大学・専門学校生960円
高校生・65歳以上600円

入場者数 141,131人（1日平均 3,714人）

関連事業 「ぼくもわたしも、なりきりRYOMA！」記念撮影会
日 時 平成22年5月30日（日）11時～17時
会 場 1階正面玄関横ロビー（撮影） 学習室1・2（着替え）
受 講 料 無料
参加者数 約90人

3 特別展 大昆虫博

期 間 平成22年6月22日（火）～9月5日（日） 延べ66日間

会 場 1階 企画展示室、学習室

主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、読売新聞社、
ヒーローズエデュテイメント、東映

後 援 文部科学省、環境省、NHK、東京都教育委員会、千葉県教育委員会、
埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、群馬県教育委員会、栃木県教育委員会、

協 賛	茨城県教育委員会、山梨県教育委員会、G T F
協 力	オリンパスイメージング株式会社
展示協力	集英社 N P O法人むしむし探し隊（養老孟司、奥本大三郎、池田清彦）、やくみつる、名和昆虫博物館、兵庫県立歴史博物館、海野和男、東京大学 先端科学技術センター 神崎亮平、工学院大学 工学部機械システム工学科 鈴木健司、S T U研究所 小檜山賢二、慶應義塾大学 マイクロアーカイビングプロジェクト、松田邦雄、埼玉昆虫談話会、中嶋大道、高橋みのる
映像協力	N H Kエンタープライズ
監 修	奥本大三郎
内 容	昆虫は今から約4億年前に誕生し、その後、様々な環境の変化に適合しながら地球上に広がり、現在では約100万種の昆虫が確認されている。 本展では、古来、昆虫と親しんできた日本人の文化や生活を、貴重な文献・標本資料、映像、歴史資料などから紹介し、「昆虫」という小さな命を通じて、昆虫をはぐくんできた自然環境についても考える機会とした。
観 覧 料	一般1,300円 大学・専門学校生1,040円 小中高生・65歳以上650円
入場者数	108,501人（1日平均 1,644人）

4 特別展 隅田川～江戸が愛した風景～

期 間	平成22年9月22日（水）～11月14日（日） 延べ47日間
会 場	1階 企画展示室
主 催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、読売新聞社
協 賛	光村印刷、キャノンマーケティングジャパン
内 容	江戸の人びとにとって物流の大動脈であると同時に、江戸の名所として、あるいは江戸の名所を数多く抱えた場所として深く愛され親しまれ続けてきた「隅田川」。本展覧会は、当館が所蔵する「描かれた隅田川」を中心に、江戸の文化や生活をはぐくむ隅田川の姿を、多角的に紹介。『伊勢物語』の舞台に登場する隅田川から近代画家らによる作品を通じて文化・生活に根ざした隅田川の存在を再認識した。
観 覧 料	一般1,100円 大学・専門学校生880円 小中高生・65歳以上550円
入場者数	68,901人（1日平均 1,466人）
関連事業	「隅田川を写したフォトコンテスト」 募集期間 平成22年4月10日（土）～8月10日（火） 展示期間 平成22年9月22日（水）～11月14日（日） 展示会場 1階 廊下 応募人数 200人 展示人数 41人

特別展「隅田川」開催記念落語会

- ① 出 演 柳家さん喬
日 時 平成22年10月11日（月・祝）
会 場 ホール
演 目 「隅田川 ひととせの四季」
参加人数 394人
- ② 出 演 古今亭志ん輔
日 時 平成22年10月24日（日）

会 場 ホール
演 目 「隅田川の流れゆかしき」
参加人数 347人

試写会「最後の忠臣蔵」
日 時 平成22年10月9日（土）
会 場 ホール
参加人数 310人

- 5 特別展 安部朱美創作人形展 昭和の家族 きずな
期 間 平成22年11月20日（土）～平成22年12月17日（金） 延べ24日間
会 場 1階 企画展示室
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、東映株式会社
協 力 「昭和の家族」実行委員会、東京新聞
内 容 本展では、家族が深く寄り添い、貧しくも心豊かに暮らしていた昭和という時代を、谷川俊太郎の展覧会オリジナルの詩や、ハービー・山口の写真、安部朱美の創作人形を通して振り返るとともに、日本の衣・食・住、暮らしの知恵、遊びや風俗などの生活文化の諸相を描き出し、家族や人々の「絆」の素晴らしさと大切さを改めて見つめなおした。
観 覧 料 一般1,000円 大学・専門学校生800円
小中高生・65歳以上500円
入場者数 21,513人（1日平均 896人）
関連講座 「人形作家安部朱美のギャラリートーク」
日 時 平成22年11月20日（土）11時・14時
11月21日（日）11時
講 師 安部朱美
会 場 1階展示室
受 講 料 無料（特別展入場者対象）
参加者数 各回約60人
- 6 特別展 2010年NHK大河ドラマ特別展 江～姫たちの戦国
期 間 平成23年1月2日（日）～2月20日（日） 延べ46日間
会 場 1階 企画展示室
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、NHK、NHKプロモーション
協 賛 ハウス食品、三井住友海上
内 容 浅井長政とお市の方の三女、江。2度の落城と3回の結婚を経ながらも、徳川二代将軍の正室、三代将軍の生母としてその生涯を終えた。本展では江の息子、秀忠が建立し、東京祐天寺より発見された江を弔うための厨子「宮殿」の他、江をとりまく人々のゆかりの品や、歴史資料で構成しながら、女性の視線で戦国の動乱期をとらえるとともに、江の波瀾に満ちた生涯を紹介した。
観 覧 料 一般1,300円 大学・専門学校生1,040円
高校生・65歳以上650円
入場者数 95,891人（1日平均 2,085人）
- 7 特別展 五百羅漢 増上寺秘蔵の仏画 幕末の絵師 狩野一信
期 間 平成23年3月15日（火）～31日（木） 延べ15日間

*全体の会期は、平成23年3月15日（火）～5月29日（日） 延べ68日間

会場	1階 企画展示室
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館 大本山増上寺、日本経済新聞社
企画協力	浅野研究所
協賛	カラーキネティクス・ジャパン、三菱レイヨン、リリカラ
内容	徳川将軍家ともゆかりが深く、日本有数の大寺院である増上寺。平成23年の法然上人の800年御忌を記念し、同寺院が所蔵する「五百羅漢図」を一挙公開。五百羅漢現出の様子が精細に表現されている本作は、狩野一信の遺作にして畢生の名作とされながら、戦後人びとの目に触れることがなかった。本展では関係資料も展示し、日本美術史上でも極めて重要な意義を持つ「五百羅漢図」の全貌を明らかにする。
観覧料	一般1,300円 大学・専門学校生1,040円 小中高校生・65歳以上650円

※平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う修繕工事のため、平成23年3月12日より4月30日まで臨時休館することとなったが、本展は会期を4月29日（金・祝）～7月3日（日）に変更し、先行再開した。

8 開館20周年記念事業特別展準備

開館20周年記念事業特別展準備のため、平成23年3月10日から13日にかけて中華人民共和国・北京市内の中国国家文物局、中国文物交流中心センター、故宮博物院、北京首都博物館、頤和園円明園を訪問し、資料調査及び展覧会を含む交流事業について意見交換を行い、開館20周年記念特別展への協力ならびに作品借用の了解を得た。

Ⅲ 資料収集

1 資料収集

貴重な文化遺産を継承していくため、東京都と調整を図りながら厳選した資料収集を行った。

平成22年度は、資料収蔵委員会を2回開催し、第1回目（10月27日）では購入資料を中心に、第2回目（1月28日）では寄贈資料を中心に付議した。

(1) 平成22年度資料収集点数 (単位：点)

区分	購入	寄贈	その他	計
標本資料	285	731	1	1,017
図書資料	630	0	5,011	5,641
映像音響資料	0	13	0	13
合計	915	744	5,012	6,671

(2) 主な収集資料（寄贈資料より）

分類	資料名
絵画	橋口五葉版画、デッサン
文書類等	旗本仁木家文書
文書類等	御維新前後必要記憶（御家人逸見家備忘録）
典籍等	江戸時代の医学書他
印刷物	浅草国際劇場図面
生活民俗等	海軍将校戦死関係資料

生活民俗	今戸土人形関係資料
生活民俗	白麻地拵模様単衣着物他
生活民俗	長板中形型紙
静止画	黒焦げの電柱関係写真

2 資料制作

下記の複製資料を製作した。

- (1) 資料名 国立歴史民俗博物館所蔵「江戸図屏風」
 点数 六曲一双
 説明 国立歴史民俗博物館所蔵「江戸図屏風」は、常設展示「都市の原型」を構成する上で不可欠であることから、年間を通じて複製（印刷版、写真版）を展示している。このうち、写真版は経年劣化による褪色が甚だしく、当資料の正確な情報が伝えにくくなっている。また、原本の修理により得られた新たな資料情報を反映させるため、写真版の複製資料を再製作した。
- (2) 資料名 十二ヶ月年中江戸風俗絵巻（下巻）
 点数 1点
 説明 紀州藩の江戸詰め御用絵師で狩野派の門人、山本養和の作。正月から十二月まで各月の江戸市中の年中行事、風俗を描いている。本資料は展示活用頻度が高く、原資料保護の観点から製作した。

3 収蔵品の購入

常設展・企画展・特別展に有効に利用される資料、及び利用頻度が高く保全面で留意する必要がある資料を優先し、資料総体の消耗を防ぎつつ、魅力ある博物館運営を図れるよう、資料を購入した。

〔主な購入資料〕

分類	資料名
絵画	和宮江戸下向絵巻
絵画	遊里風俗図帖
工芸品	納戸麻地松秋草風景模様帷子（襲付）
工芸品	白麻地山吹嚮模様中裁
工芸品	友禅小袖裂吉原大門模様掛幅
工芸品	鶴亀松竹梅七宝繫葵蝶紋蒔絵調度
文書類	徳川家康書状
文書類	押勤方心得書留
文書類	元治度二丸御表大奥共総切絵図
印刷物	新板江戸大絵図（延宝四年十一月）
印刷物	みつこしタイムス
生活民俗	銀座松坂屋中支出征負傷店員宛従業員一同見舞手紙綴
生活民俗	アイスクリーム製造器

IV 資料管理・保全

1 資料管理・保全

(1) 資料の修理

96件（176点）の修理を行った。

〔内 訳〕

資料分類	件数	点数	資料分類	件数	点数
標本資料	88	100	図書資料	1	69
絵画	3	14	図書	1	69
工芸品	5	5			
文書類	74	74	映像音響資料	7	7
典籍	1	1	動画	7	7
印刷物	1	1			
生活民俗	4	5			

(2) 資料の収蔵

平成23年3月末日現在、555,504点（データ点数）を収蔵、管理している。

【内 訳】

標本資料 302,851点

映像音響資料 37,502点

図書資料 215,151点

(3) 資料の貸出

平成23年3月末日現在、博物館等の依頼に応じて、26件（273点）の資料を貸し出した。

(4) 収蔵庫の棚卸し

平成20年度から22年度の3年間で、収蔵資料（標本および映像音響資料、図書資料は除く）339,459点の資料の確認作業を行った。

(5) 寄託資料の更新

9件、20,823点の寄託資料の更新を行った。

(6) 資料目録の作成

「東京都江戸東京博物館資料目録 占領期カラスライド」を1千部作成した。

2 コンピュータシステムの運営

資料の収集から資料の各種事業（常設・企画展示、調査研究、資料のメンテナンス、貸出等）への活用までを支援するとともに、来館者に対して図書室の端末等により資料の情報を文字と画像で提供するため、コンピュータシステム（資料情報システム）の管理及び運用を行う。

今年度は、資料写真画像のデジタル化に伴うシステム改修を行った。また、資料情報系ネットワークのコアスイッチの冗長化を行い、情報サービスの継続性を高めた。

V 調査・研究

1 都市歴史研究

(1) 年間特定研究

「江戸の町の制度と暮らし」、「隅田川流域の歴史と文化」、シンポジウム「江戸の町名主」等で成果を発表した。

小澤弘・湯川説子・行吉正一・近松鴻二・石山秀和・高山慶子・田原昇

(2) 共同研究

① 比較都市研究 江戸と大坂（大阪歴史博物館）

小澤弘・湯川説子・行吉正一・近松鴻二・石山秀和・高山慶子・田原昇・市川寛明・大阪歴史博物館（豆谷浩之・船越幹央）

② 狩野享吉文庫の調査と研究（東北大学および附属図書館）

小澤弘・近松鴻二・石山秀和・市川寛明・東北大学・同附属図書館

③ CGによる江戸東京の町並復元（東京電機大学高橋研究室）

小澤弘・湯川説子・行吉正一・近松鴻二・石山秀和・高山慶子・田原昇・東京電機大学高橋時市郎教授・高橋研究室大学院生

④ 江戸名所百人美女の調査と研究（ポーラ文化研究所）

小澤弘・ポーラ文化研究所（村田孝子）

⑤ 「町方書上」（国立国会図書館所蔵）のデータベース化（江戸東京博物館友の会） 高山慶子・江戸東京博物館友の会

(3) 基盤研究

① 館蔵錦絵の調査と研究（近代版画）（小澤弘・小山周子）

② 館蔵肉筆画の調査と研究（小澤弘・我妻直美）

③ 川村清雄関係資料の調査（田原昇・落合則子）

④ 東京の文学に関する調査研究（湯川説子・行吉正一）

⑤ 館蔵喜多川コレクションの調査研究（近松鴻二・行吉正一）

⑥ 雑誌の調査研究（行吉正一）

⑦ 館蔵の各種地図 江戸を除く館蔵地図の調査研究（近松鴻二）

⑧ 館蔵の勝海舟日記の調査研究（近松鴻二・藤田英昭〈インターン〉）

⑨ 勤番武士関係資料の調査研究（石山秀和）

⑩ 館蔵江戸東京の文人に関する調査研究（石山秀和）

⑪ 館蔵大伝馬町名主馬込家文書の研究（高山慶子）

⑫ 館蔵石井コレクションの調査研究（近松鴻二・高山慶子）

⑬ 館蔵幕府諸役職関係文書の調査研究（田原昇）

⑭ 館蔵旗本御家人資料群の調査研究（田原昇）

⑮ 博物館図書室の本一利用と保存に関する調査研究（栗原智久）

⑯ レファレンス協同データベースについての調査研究（井上美奈子）

⑰ 館蔵大正期から昭和期の絵雑誌のながれについての調査研究（佐藤将氏寄贈資料）（式淳子）

⑱ 展覧会図録（カタログ）調査研究（楯石もも子）

⑲ 都内自治体史の調査研究（楯石もも子）

⑳ 製本・装丁に関する調査研究（楯石もも子）

(4) シンポジウムの開催

「江戸の町名主～町の仕組みと名主の生活～」

江戸の町名主の役割を、時期的な変化に着目して検証するとともに、文化活動や経済・金融など町名主本来の職務とは異なった側面にも注目し、町の仕組みと名主の特質について検証した。

開催日 平成23年2月19日（土）
会場 1階 ホール
参加人数 328人
内容 片倉比佐子（近世史料研究会）「名主の由緒に見る江戸の町政」
加藤貴（早稲田大学）「名主惣寄合と町方の合意形成—18世紀を中心に—」
小林信也（川村学園女子大学）「近世末期における名主の都市官僚化」
牧野宏子（関東学院大学）「浅草福富町名主と文人たち—永野又次郎宛書簡より—」
高山慶子（専門研究員）「名主の経済事情と金融」

(5) フォーラムの開催

「喜多川周之コレクション」

館蔵喜多川周之コレクションについての研究成果を発表した。

開催日 平成22年12月4日（土）
会場 1階 ホール
参加人数 200人
内容 行吉正一（学芸員）「喜多川コレクションとは何か」
小木曾淑子（「下町衆談」主宰者）「浅草学校の同窓生 喜多川周之氏について」
細馬宏通（滋賀県立大学）「絵はがきの中へ—十二階絵はがきから覗く浅草—」
佐藤健二（東京大学）「喜多川周之コレクションの魅力—民間学者の遺産—」

(6) 書籍の編集・刊行

① 『調査報告書』第24集の刊行

当館が位置する両国地域の歴史と文化を、隅田川との関係をふまえながら検討したシンポジウム「両国地域を考える」（平成22年3月13日実施）の成果を反映させ、歴史・美術・文学・図書などの視点からアプローチを行った。

名称 『両国地域の歴史と文化』

発行年月日 平成23年3月31日

発行部数 1,100部

構成

I. 口絵

II. 序言

III. 論文

竹内誠（江戸東京博物館館長）「両国盛り場論」

小島惟孝（元墨田区立緑図書館館長）「両国界隈の歴史と人」

小澤弘（都市歴史研究室長）「描かれた両国」

高山慶子（専門研究員）「近世本所の町と生業」

土屋喜敬（相撲博物館学芸員）「近世後期の相撲興行と両国地域」

平山昇（東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得満期退学）

「両国駅の近代史—郊外行楽・社寺参詣および震災後の都市変容に注目して—」

湯川説子（学芸員）「斎藤緑雨と両国地域」

行吉正一（学芸員）「芥川龍之介の両国」

西村健（墨田区立すみだ郷土文化資料館専門員）

「空襲で焼失した街の構造を復元する試み—本所区石原町周辺を中心に—」

IV. 関連図書資料目録

式淳子（司書）「両国地域の歴史と文化」

V. シンポジウム「両国地域を考える」の記録

② 『史料叢書』の刊行

江戸東京博物館が所蔵する、勝海舟の日記を翻刻し、本文等に登場する人名を中心とした注を付した。

名 称 『江戸東京博物館史料叢書 勝海舟関係資料 海舟日記（五）』
発行年月日 平成23年3月31日
発行部数 600部
構 成 口絵「海舟日記」（影印）
海舟日記九（明治3年10月24日～明治5年正月15日）
解説（藤田英昭）

③ 『紀要』第1号の刊行

江戸東京博物館で行った研究や博物館活動の成果を公表するため、『東京都江戸東京博物館紀要』第1号を刊行した。旧『研究報告』を改題し、判型をA4判とした。

名 称 『東京都江戸東京博物館紀要』第1号
発行年月日 平成23年3月31日
発行部数 1,450部
構 成

- I. 口絵
- II. 序言
- III. 論文

落合則子（学芸員）「明治後期における川村清雄の作品売買の一様相—川村家の親族と三井系人脈の関係にみるパトロネージの実態—」

田中裕二（学芸員）「明治後期の三井呉服店における日比翁助の企業経営と藝術支援—百貨店経営理念の形成と美術的展覧会の理想—」

小山周子（学芸員）「新版画の制作—館蔵の川瀬巴水原画について」

IV. 研究ノート

近松鴻二（学芸員）「和暦の西暦表示についての提言」

V. 調査・事業報告

阿部由紀洋（学芸員）・齋藤優美（研究員）

「企画展『えどはくでおさらい！』開催報告」

行吉正一（学芸員）・田中実穂（学芸員）

「文学散歩という方法—漱石文学散歩の記録—」

湯川説子（学芸員）

「三島由紀夫『橋づくし』を読む・見る・歩く—講義・展示・文学散歩の記録と考察—」

早川典子（学芸員）

「野外博物館スカンセンでの研修報告」

(7) 研究会の開催

調査研究活動の成果を発表するため、研究会を13回開催した。

テーマ	開催日	発表者	内容	参加者数
調査・研究・展示へ向けて	6月25日(金)	小澤弘(都市歴史研究室長)	国内外の博物館での展示のあり方を、映像を交えて紹介・考察。	6
レファレンス協同データベースと図書室のリンク	7月16日(金)	井上美奈子(司書)	アクセス件数の多い当館レファレンスの特徴を捉えるとともに、図書室HP上のリンクの活用のあり方を探る。	10
米兵の見た東京復興	9月10日(金)	沓澤博行(学芸員)	資料としてのカラー写真の歴史と、写された昭和20年代の東京風景を紹介。	7
「えどはくでおさらい!明治・大正時代」展の企画と実施	10月8日(金)	阿部由紀洋(学芸員)・齊藤優美(学芸員)	展示概要の紹介と、資料活用による教育効果、博学連携のあり方について討議。	12
「徳川御三卿展」をふりかえって	11月12日(金)	眞下祥幸(学芸員)	御三卿の各家に関わる資料の紹介と、それぞれが果たした役割について考察。	10
「勝海舟日記」あれこれ	11月26日(金)	近松鴻二(学芸員)・藤田英昭(インターン)	館蔵勝海舟関係資料収集の経緯と、明治初期の海舟日記についての分析と考察。	7
一橋高校における講座～【博物館学入門】右往左往の軌跡～	12月3日(金)	海上尚美(都立一橋高校教諭)	当館における連携講座の実践報告と博学連携のあり方を討議。	7
林芙美子「放浪記」でみるモダン都市東京	12月10日(金)	橋本由起子(学芸員)	都市生活者としての林芙美子の作品と人生に焦点を当て、現代東京との比較を行う。	10
〈隅田川〉と総称した川の流れは、どのように認識されてきたのだろうか?	1月14日(金)	我妻直美(学芸員)	〈隅田川〉のイメージと、その範囲に関する問題提起と討議。	8
モナコ公国「京都一東京、サムライからマンガまで」展報告	1月21日(金)	小澤弘(都市歴史研究室長)・西村直子(学芸員)	展覧会の企画概要と開催意義およびクリーエとしての実務の報告。	8
横山松三郎	2月4日(金)	岡塚章子(学芸員)	写真を通して時代を記録した横山松三郎の生涯と作品を紹介。	7
シンポジウム「江戸の町名主」に向けて	2月10日(木)	高山慶子(専門研究員)	江戸の町名主に関する研究の現状についての考察。	7
比較較都市研究 江戸と大阪～近代の塔～※	3月22日(火)	行吉正一(学芸員)・船越幹央(大阪歴史博物館学芸員)	明治期の東京と大阪における高塔の紹介と比較。	10

※会場は大阪歴史博物館

(8) インターンの受入れ

インターン制度を導入し、調査研究活動を推進した。

[本館]

- ① 「館蔵勝海舟日記の翻刻」 藤田英昭 (徳川林政史研究所非常勤研究員)

[分館]

- ① 「新規復元建造物の調査研究を通じた人材育成」
金谷匡高 (法政大学大学院生)
- ② 「模型、図面の技術を活用した展示解説業務を通じた人材育成」
桐生さゆり (東京家政学院大学生)
- ③ 「2棟復元に関連する業務等を通じた人材育成」
高橋由香里 (日本女子大学大学院生)
- ④ 「教育普及及び屋外展示業務を通じた人材育成」
武藤茉莉 (昭和女子大学大学院生)
- ⑤ 「特別展示制作等の業務を通じた人材育成」
堀口渚 (跡見学園女子大学大学院生)
- ⑥ 「展示に関するデザイン、図面等の制作を通じた人材育成」
本橋仁 (早稲田大学大学院生)

(9) 学芸員実習の受入れ

将来の博物館を担う人材の育成と、当館の博物館活動の社会還元のために、学芸員資格取得に必要な博物館実習を受け入れた。

申込数 27校

受入者数 20名

期間 平成22年8月23日(月)～9月3日(金)

カリキュラム

	実施日	スケジュール	実施内容	実施形式	担当係
1	8月23日(月)	午前	【オリエンテーション】 室長挨拶・概要説明・館内外動線 及び主要施設案内・自己紹介	講義・見学	都市歴史 研究室
		午後	【オリエンテーション】館長挨拶	講義	都市歴史 研究室
			【施設管理】博物館の施設管理	講義・見学	管理係
			【広報活動】博物館の広報活動	講義	事業推進 係
2	8月24日(火)	午前	【ボランティア・友の会】ボラン ティア、友の会の活動と運営	講義	展示事業 係
			【常設展示(1)】常設展示に ついて	講義	展示事業 係
		午後	【常設展示(2)】常設展示の見学	見学	展示事業 係
			【特別展】 特別展の概要、見学	講義・見学	展示企画 係

3	8月25日（水）	午前	【資料収集】資料の収集	講義	資料係
			【資料管理】資料の管理と修復	講義	
		午後	【収蔵庫】バックヤード見学、 資料のクリーニング	見学・実習	資料係
			【展示・広報実習（1）】 展示・広報実習の説明 課題資料の割当て	講義	都市歴史 研究室
4	8月26日（木）	全日	【展示・広報実習（2）】 資料の収集・取扱い （A）資料の写真撮影 （B）情報カードの作成 刀、掛軸、巻子の取り扱い	実習	展示事業 係 都市歴史 研究室
5	8月27日（金）	午前	【博物館の現状】	講義	都市歴史 研究室
			【図書室】図書資料の概要、 図書室の運営と利用法	講義	
		午後	【展示・広報実習（3）】 基本計画の立案	講義・実習	
6	8月30日（月）	午前	【たてもの園】たてもの園の概要、 たてもの園の学芸業務、教育普及 事業	講義	たてもの 園
		午後	【たてもの園】 建造物内の演示品整理	実習	
			【たてもの園】 継続	講義	
7	8月31日（火）	午前	【たてもの園】 建造物の解体と移築復元 園内建造物の見学	講義 見学	たてもの 園
		午後	【たてもの園】 ボラティア活動体験	実習	
			【たてもの園】 たてもの園の展示	講義・見学	
8	9月1日（水）	午前	【展示・広報実習（4）】 基本計画批評	実習	実習PT
		午後	【展示・広報実習（5）】 基本計画修正、展示準備		
9	9月2日（木）	全日	【展示・広報実習（6）】 展示作業、展示の批評、記念撮影	実習	実習PT
10	9月3日（金）	午前	【展示・広報実習（7）】広報企画 について	講義	事業推進 係
		午後	【展示・広報実習（7）】展覧会チ ラシ作成、批評	実習	実習PT
			【学芸員実習のまとめ】 日誌記入・室長挨拶	講義	都市歴史 研究室

(10) その他の研修受入れ

- ① 首都大学東京現場体験型インターンシップ 平成22年9月8日（水）～10日（金）（3名）
- ② 都立一橋高校博物館学入門連携授業 6コマ（延べ57名）
- ③ 東京都教職員研修 平成22年8月27日（金）（14名）

(11) 博学連携

当館の入館者増とリピーターの確保及び平成14年度から実施された完全学校週五日制と「総合

的学習」に対応するため、博物館と学校との連携事業を展開した。当館を学習の場として希望する生徒を対象に「訪問学習」を実施した。

平成18年度から、都内中学校で要請があった学校からの「職場体験」の依頼にも対応を始め、主に常設展示室の体験コーナーでの昔遊び実演補助などの体験機会を提供している。

① 訪問学習の実施

博学ボランティア（10名）による歴史学習への対応

参加人数 327人

参加学校数 59校（小学校 0、中学校 51、高等学校 8、大学 0）

② 職場体験の実施

参加人数 21人

参加学校数 8校（中学校）

2 復元建造物展示調査

(1) 万徳旅館・大和屋本店（乾物屋）の演示品収集と東京都が実施する復元工事への協力

(2) 三島邸の展示基本計画の作成、復元設計への協力

VI 図書室等の運営

博物館資料として収集した図書の保存及び来館者への閲覧、レファレンスサービスを行った。

4週間の閉室期間中（平成22年6月8日（火）～20日（日））は、蔵書整理、開架書籍の入替えなどを実施した。また、新たにカラーコピーサービスを開始した。

1 図書室利用状況

入室者数	43,194人
閉架図書請求数	2,533冊
マイクロフィルム請求数	632件
図書複写申請数（モノクロ）	13,145枚
図書複写申請数（カラー）	1,289枚
マイクロフィルム複写申請数	6,039枚
レファレンス対応数	1,981件
インフォメーション対応数	1,418件
WEB-OPAC検索利用数 ※	156,047件
ALC検索利用数 ※	85,222件
国立国会図書館レファレンス協同データベース利用数 ※	85,616件

※ 平成23年3月31日現在の実績

それ以外は、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う修繕工事により、3月12日から4月30日まで臨時休館となったため、平成22年4月1日から平成23年3月11日までの実績である。

2 図書室への招待席

図書室が所蔵する図書の魅力を直接伝える講座を開催し、図書室利用者の増進に寄与した。

講座名	開催日	講師	参加人数
図書室活用虎の巻 OPAC で本を探そう	4月23日(金)	楯石もも子(司書)	25
リテーマツアー 歌舞伎中村座調査大作戦!	8月6日(金)	栗原智久(司書)	19
江戸時代のお武家さんの住処を調べる	11月11日(木)	田原昇(専門研究員)	115
本と映像でみる 東京の島々	2月25日(金)	行吉正一(学芸員)	36

3 夏休み子ども歴史学習相談

夏休みの自由研究や調べ学習に関するレファレンス対応を図書室で行った。実施にあたっては専用書架を設け、図書リストを作成し、事前周知を行った。

期 間 平成22年7月17日(土)～8月29日(日)

4 図書室内展示

図書室が所蔵する資料から、話題性のあるテーマで特集展示を行った。

展示テーマ	会 期	担 当
錦絵・文学作品にみる百本杭	4月1日(木)～25日(日)	栗原智久(司書)
描かれた虫たち	6月22日(火)～9月5日(日)	楯石もも子(司書)
歌舞伎にみる隅田川もの	9月22日(水)～11月14日(日)	井上美奈子(司書)
上野動物園百周年とパンダのランラン	12月1日(水)～1月30日(日)	楯石もも子(司書)
描かれた増上寺	2月1日(火)～3月31日(木)※	式淳子(司書)

※ 平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う修繕工事により、3月12日から4月30日まで臨時休館となったため、3月11日で会期終了となった。

VII 教育普及

1 えどはくカルチャー

都市歴史研究室が行っている調査研究活動の成果をわかりやすく解説する講座、特別展・企画展の関連講座、あるいは首都大学東京・JR東日本ジパング倶楽部といった外部機関との連携講座などを中心に合計145講座を開催した。なお、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、3月に実施を予定していた4講座の開催を平成23年度に延期した。

期 間 平成22年4月22日(木)～平成23年3月25日(金)
 会 場 江戸東京博物館(ホール、会議室、学習室1・2)等
 受講料 700円～6,000円
 (友の会、ボランティア、子ども 500円～4,800円)
 受講者数 12,836人

講座数 145講座（うちJR東日本ジパング倶楽部連携講座21講座、首都大学東京連携講座5講座、文京アカデミア6講座、聴力障害者情報文化センター1講座）

(1) 春期カルチャー 計33講座

※外部講師

	講座名	開催日	講師	参加人数
展覧会 関連講座	特別展「龍馬伝」関連講座① 龍馬暗殺	4月30日	※木村幸比古	375
	特別展「龍馬伝」関連講座② 坂本龍馬の難解な手紙を読み解く	5月7日	※宮川禎一	314
	特別展「龍馬伝」関連講座③ 海舟日記から消えた龍馬	5月14日	※松浦玲	336
	特別展「龍馬伝」関連講座④ 「龍馬伝」と時代考証	5月21日	※大石学	316
	企画展「発掘された日本列島 2010」関連講座 奈良県桜井市の纏向遺跡・列島展見どころ紹介	7月10日	※橋本輝彦	157
	企画展「発掘された日本列島 2010」関連講座 武蔵国の郡衙遺跡	7月9日	※中島広顕	102
	企画展「発掘された日本列島 2010」関連講座 シンポジウム『いまなぜ邪馬台国か?』	7月3日	※高島忠平 ※石野博信 ※西谷正 ※吉村武彦	328
江戸と 東京を 学ぶ	連続講座 江戸を読む1① 町方与力の由緒書(午後)	5月13日	高山慶子	107
	連続講座 江戸を読む1① 町方与力の由緒書(午前)	5月13日	高山慶子	80
	連続講座 江戸を読む1② 町方同心の記録(午後)	6月24日	高山慶子	103
	連続講座 江戸を読む1② 町方同心の記録(午前)	6月24日	高山慶子	68
	連続講座 江戸東京の絵師と肉筆画1① 岩佐又兵衛	4月22日	小澤弘	133
	連続講座 江戸東京の絵師と肉筆画1② 狩野探幽	5月20日	小澤弘	122
	連続講座 江戸東京の絵師と肉筆画1③ 住吉具慶	6月17日	小澤弘	116
	連続講座 酒井伴四郎日記を読む① 江戸勤番武士と江戸の食文化(午後)	5月12日	石山秀和	121
	連続講座 酒井伴四郎日記を読む① 江戸勤番武士と江戸の食文化(午前)	5月12日	石山秀和	106
	連続講座 酒井伴四郎日記を読む② 勤番武士と江戸の行楽(午後)	6月9日	石山秀和	119

江戸と東京を学ぶ	連続講座 酒井伴四郎日記を読む② 勤番武士と江戸の行楽 (午前)	6月9日	石山秀和	91
	連続講座 酒井伴四郎日記を読む③ 江戸に暮らす勤番武士たち(午後)	7月14日	石山秀和	114
	連続講座 酒井伴四郎日記を読む③ 江戸に暮らす勤番武士たち(午前)	7月14日	石山秀和	90
	江戸東京の町とたてもの3① 日本人建築家の誕生	5月15日	米山勇	92
	江戸東京の町とたてもの3② 帝劇への道程	6月19日	米山勇	102
	永井荷風『新橋夜話』にみる都市東京	5月26日	湯川説子	74
	漱石の随筆をよむ～明治・大正の東京	6月30日	行吉正一	72
	江戸東京歴史入門1「時」① 干支(年と日の表記)(午後)	5月28日	近松鴻二	116
	江戸東京歴史入門1「時」① 干支(年と日の表記)(午前)	5月28日	近松鴻二	123
	江戸東京歴史入門1「時」② こよみ(太陰・太陽暦)(午後)	6月25日	近松鴻二	130
	江戸東京歴史入門1「時」② こよみ(太陰・太陽暦)(午前)	6月25日	近松鴻二	112
	江戸東京歴史入門1「時」③ 時刻(12辰刻と不定時法)(午後)	7月23日	近松鴻二	109
	江戸東京歴史入門1「時」③ 時刻(12辰刻と不定時法)(午前)	7月23日	近松鴻二	112
	古文書講座	古文書解読ことはじめ①	5月27日	田原昇
古文書解読ことはじめ②		6月3日	田原昇	45
古文書解読ことはじめ③		6月10日	田原昇	49

(2) 夏期カルチャー 計 24 講座

※外部講師

	講 座 名	開 催 日	講 師	参加 人数
展 覧 会 関 連 講 座	特別展「大昆虫博」関連講座① 虫採りは地球を救う	7月30日	※名和哲夫	41
	特別展「大昆虫博」関連講座② 対談 都会の昆虫少年・身近な虫	8月1日	※やくみつる ※名和哲夫	130
	特別展「大昆虫博」関連講座③ 対談 虫は友だち	8月8日	※奥本大三郎 ※池田清彦	119
	特別展「大昆虫博」関連講座④ 虫をみて考えよう	8月15日	※養老孟司	220
	企画展「東京復興—カラーで見る昭和20年代東京の軌跡—」関連講座 写された戦後東京—米兵達の記録から	8月27日	杓沢博行	96
江 戸 と 東 京 を 学 ぶ	江戸東京歴史入門2「もの」の数え方① 大数・小数と『塵劫記』(午後)	8月20日	近松鴻二	118
	江戸東京歴史入門2「もの」の数え方① 大数・小数と『塵劫記』(午前)	8月20日	近松鴻二	67
	江戸東京歴史入門2「もの」の数え方② 度量衡(長さ・体積・重さ)と面積(午後)	9月17日	近松鴻二	113
	江戸東京歴史入門2「もの」の数え方② 度量衡(長さ・体積・重さ)と面積(午前)	9月17日	近松鴻二	64
	雑誌から見る関東大震災	9月16日	行吉正一	65
	明治文学歳時記(夏の巻)	8月25日	湯川説子	56
	連続講座 江戸東京の絵師2① 英一蝶	7月22日	小澤弘	131
	連続講座 江戸東京の絵師2② 宮川長春	9月2日	小澤弘	122
	連続講座 江戸を読む2① 町方同心の仕事I(午後)	7月29日	高山慶子	127
	連続講座 江戸を読む2① 町方同心の仕事I(午前)	7月29日	高山慶子	112
	連続講座 江戸を読む2② 町方同心の仕事II(午後)	8月19日	高山慶子	109
	連続講座 江戸を読む2② 町方同心の仕事II(午前)	8月19日	高山慶子	103
古 文 書 講 座	古文書解読の第一歩	9月8日	石山秀和	65

古文書講座	古文書解読の第一歩	9月15日	石山秀和	65
	古文書解読の第一歩	9月22日	石山秀和	54
えどかるワークショップ	落語家駿菊師匠に弟子入り体験ちりとてちん!	8月18日	※古今亭駿菊	15
	和楽器にふれてみよう!水道管尺八	8月26日	※田嶋謙一	14
	和綴じ本を作ってみよう!(午後)	8月4日	楯石もも子	32
	和綴じ本を作ってみよう!(午前)	8月4日	楯石もも子	36

(3) 秋期カルチャー 計 34 講座

※外部講師

	講座名	開催日	講師	参加人数
展覧会関連講座	特別展「隅田川～江戸が愛した風景～」① みどころ	10月1日	我妻直美	115
	特別展「隅田川～江戸が愛した風景～」② 隅田川凶巻と江戸後期の浮世絵事情	10月8日	※内藤正人	131
	特別展「隅田川～江戸が愛した風景～」② 変貌する川の風景ー関東大震災と隅田川	10月15日	※加藤弘子	79
	企画展「徳川御三卿」関連講座① 御三卿と徳川将軍家 (午後)	10月6日	真下祥幸	114
	企画展「徳川御三卿」関連講座① 御三卿と徳川将軍家 (午前)	10月6日	真下祥幸	69
	企画展「徳川御三卿」関連講座② 知られざる清水徳川家の実像 (午後)	10月13日	※藤田英昭	104
	企画展「徳川御三卿」関連講座② 知られざる清水徳川家の実像 (午前)	10月13日	※藤田英昭	72
	企画展「徳川御三卿」関連講座③ 一橋徳川家の成立と展開 (午後)	10月20日	※永井博	103
	企画展「徳川御三卿」関連講座③ 一橋徳川家の成立と展開 (午前)	10月20日	※永井博	69
	企画展「徳川御三卿」関連講座④ 田安德川家と江戸の文人社会 (午後)	10月27日	石山秀和	105
	企画展「徳川御三卿」関連講座④ 田安德川家と江戸の文人社会 (午前)	10月27日	石山秀和	86

関連講座 展覧会	企画展「林芙美子と東京放浪」関連講座 旅する女・林芙美子	12月1日	橋本由起子	74
江戸と東京を学ぶ	江戸東京歴史入門3「制度」① 元号制(午後)	10月29日	近松鴻二	113
	江戸東京歴史入門3「制度」① 元号制(午前)	10月29日	近松鴻二	68
	江戸東京歴史入門3「制度」② 旧国制(午後)	11月19日	近松鴻二	126
	江戸東京歴史入門3「制度」② 旧国制(午前)	11月19日	近松鴻二	64
	江戸東京歴史入門3「制度」③ 参勤交代制(午後)	12月24日	近松鴻二	120
	江戸東京歴史入門3「制度」③ 参勤交代制(午前)	12月24日	近松鴻二	92
	国木田独歩と東京	11月17日	湯川説子	53
	多摩文学歴史散歩 小泉八雲「雪おんな」の青梅を歩く	11月5日	行吉正一	33
	多摩文学歴史散歩 小泉八雲「雪おんな」の青梅を歩く(散歩)	11月12日	行吉正一	25
	連続講座 江戸東京の絵師3① 鋏形蕙斎	10月7日	小澤弘	132
	連続講座 江戸東京の絵師3② 谷文晁	11月18日	小澤弘	121
	連続講座 江戸東京の絵師3③ 酒井抱一	12月16日	小澤弘	122
	連続講座 江戸を読む3① 名主と町Ⅰ(午後)	9月30日	高山慶子	85
	連続講座 江戸を読む3① 名主と町Ⅰ(午前)	9月30日	高山慶子	67
	連続講座 江戸を読む3② 名主と町Ⅱ(午後)	10月21日	高山慶子	76
	連続講座 江戸を読む3② 名主と町Ⅱ(午前)	10月21日	高山慶子	65
古文書講座	スタートアップ!古文書①	12月3日	田原昇	70
	スタートアップ!古文書②	12月10日	田原昇	68

講座 古文書	スタートアップ! 古文書③	12月17日	田原昇	62
たてもの園セミナー	たてもので語る江戸東京の歴史と文化① 江戸時代の多摩の寺社	11月6日	米崎清実	27
	たてもので語る江戸東京の歴史と文化② 『目』と『耳』でたどる震災復興	11月6日	※松葉一清	25
	たてもので語る江戸東京の歴史と文化③ 現代銭湯事情	11月6日	※町田忍 ※高橋元彰 米山勇	31

(4) 新春期カルチャー 計25講座 (うち、23年度へ延期 4講座)

※外部講師

	講座名	開催日	講師	参加人数
展覧会関連講座	企画展「140年前の江戸城を撮った男ー横山松三郎」 関連講座① 文化財としての古写真	1月21日	※富坂賢	92
	企画展「140年前の江戸城を撮った男ー横山松三郎」 関連講座② 幕末明治初期に求められたこと	2月4日	※山梨絵美子	97
	企画展「140年前の江戸城を撮った男ー横山松三郎」 関連講座③ みどころ講座	2月9日	岡塚章子	111
	特別展「江～姫たちの戦国～」関連講座 市と浅井三姉妹の生涯	1月27日	※太田浩司 齋藤慎一	325
江戸と東京を学ぶ	江戸東京の町とたてもの4 ① 大正建築の世界	1月22日	米山勇	92
	江戸東京の町とたてもの4 ② 帝国ホテルの衝撃	2月26日	米山勇	104
	江戸東京歴史入門4「武士の名乗り」① 位階と姓・苗字(午後)	1月14日	近松鴻二	129
	江戸東京歴史入門4「武士の名乗り」① 位階と姓・苗字(午前)	1月14日	近松鴻二	110
	江戸東京歴史入門4「武士の名乗り」② 諱(本名)と呼称(午後)	3月4日	近松鴻二	114
	江戸東京歴史入門4「武士の名乗り」② 諱(本名)と呼称(午前)	3月4日	近松鴻二	115
	江戸を読む4① 名主と大名(午後)	1月13日	高山慶子	129
	江戸を読む4 ①名主と大名(午前)	1月13日	高山慶子	65
	連続講座 江戸時代の植林史① 都市江戸の建設と山林荒廃	1月20日	田原昇	80
	連続講座 江戸時代の植林史② 武士による植林の試み	2月10日	田原昇	75

江戸と東京を学ぶ	連続講座 江戸時代の植林史③ 村方による植林の試み	(5月26日)	田原昇	延期*
	連続講座 江戸東京の絵師4① 河鍋暁斎	2月24日	小澤弘	124
	連続講座 江戸東京の絵師4② 岡倉天心と横山大観	(6月23日)	小澤弘	延期*
	連続講座 江戸を読む4② 名主の世界(午後)	2月3日	高山慶子	121
	連続講座 江戸を読む4② 名主の世界(午前)	2月3日	高山慶子	65
	明治文学歳時記(春の巻)	(24年春)	湯川説子	延期*
	詩の東京 現代詩がとらえた東京の姿	(5月18日)	行吉正一	延期*
古文書講座	古文書講座 初心者のための古文書講座①	2月16日	石山秀和	72
	古文書講座 初心者のための古文書講座②	2月23日	石山秀和	72
	古文書講座 初心者のための古文書講座③	3月2日	石山秀和	77
ムシ 関連講座 シン ポジウ ム	シンポジウム「江戸の町名主」関連講座 江戸町名主の明治	2月17日	※牛米 努	116

* 平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、平成23年度に延期
()内は延期後の開催予定日を記載

(5) JR東日本ジパング倶楽部提携講座

① 前期講座 計14講座

講座名	開催日	講師	参加人数
江戸図屏風の世界(午前)	5月17日	小澤弘	45
江戸図屏風の世界(午後)	5月17日	小澤弘	52
江戸時代の暦(午前)	5月31日	近松鴻二	44
江戸時代の暦(午後)	5月31日	近松鴻二	48
旗本御家人の生き様・死に様(午前)	6月14日	田原昇	44
旗本御家人の生き様・死に様(午後)	6月14日	田原昇	47
大伝馬町の馬込勘解由(午前)	6月28日	高山慶子	35

大伝馬町の馬込勘解由（午後）	6月28日	高山慶子	48
多摩の近代文学（午前）	7月12日	行吉正一	38
多摩の近代文学（午後）	7月12日	行吉正一	40
永井荷風と錦絵（午前）	7月26日	湯川説子	45
永井荷風と錦絵（午後）	7月26日	湯川説子	44
企画展「東京復興 昭和20年代東京の軌跡」 見どころ講座（午前）	8月24日	沓沢博行	27
企画展「東京復興 昭和20年代東京の軌跡」 見どころ講座（午後）	8月24日	沓沢博行	30

② 後期講座 計7講座

講座名	開催日	講師	参加人数
特別展「隅田川～江戸が愛した風景～」 見どころ講座	9月28日	我妻直美	43
都市の記憶－江戸東京の水辺の風景	10月4日	小澤弘	51
芥川龍之介と東京	10月18日	行吉正一	49
旗本御家人の田園ライフ	11月1日	田原昇	44
参勤交代と江戸	11月15日	近松鴻二	50
企画展「林芙美子と東京放浪」	11月30日	橋本由紀子	41
斎藤緑雨の東京	12月13日	湯川説子	47

(6) 首都大学東京提携講座 計5講座

講座名	開催日	講師	参加人数
特別展「隅田川～江戸が愛した風景～」展 見どころ講座	11月2日	我妻直美	20
江戸勤番武士の行動文化	11月16日	石山秀和	18
江戸城勤番武士	11月30日	近松鴻二	18

深川の歴史と隅田川	12月7日	田原昇	21
近代文学にみる隅田川	12月21日	橋本由紀子	17

(7) 文京アカデミア講座 計6講座

講座名	開催日	講師	参加人数
総城下町・江戸	5月11日	小澤弘	28
幕臣の暮らし	5月25日	田原昇	33
江戸の町と暮らし	6月8日	高山慶子	32
江戸の暦	6月22日	近松鴻二	26
江戸の庶民教育	7月6日	石山秀和	26
永井荷風と江戸東京	7月20日	湯川説子	27

(8) 聴力障害情報文化センター講座 計1講座

講座名	開催日	講師	参加人数
江戸の美—浮世絵	10月30日	小澤弘	49

2 江戸文化歴史検定

江戸東京の歴史と文化を普及する江戸文化歴史検定（一般社団法人江戸文化歴史検定協会主催）の監修を実施し、研究成果を活用するとともに館の広報を行った。

(1) 監修

第5回 本試験問題

第4回 公式問題解説集

【参考】 第5回 江戸文化歴史検定実績概要

日 時 平成22年10月31日（日）

会 場 明治大学駿河台校舎他

受検者数 3,110人（合格者 754人）

3級 887人（合格者 358人、合格率 40.4%）

2級 1,319人（合格者 265人、合格率 20.1%）

1級 904人（合格者 131人、合格率 14.5%）

3 伝統芸能フォーラム

伝統芸術の発展と継承を目指し、多くの都民が伝統芸能に親しむ機会を提供するため、特別展「隅

田川」展と連携したコンサートと、落語とトークの会を実施した。

(1) コンサート「隅田の調べ—江戸・明治、そして今—」

期 日 平成22年10月2日（土）
会 場 江戸東京博物館 1階ホール
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
後 援 読売新聞東京本社
内 容 第一部 江戸の調べ
1. 一中節「尾上の雲賤機帯」 都了中・都一中
2. 長 唄「四季の詠」 杵屋勝四郎・稀音家祐介・藤舎呂英 他
第二部 明治の音と隅田川
指揮：山田茂 ピアノ：齋木ユリ 合唱：東京混声合唱団
1. 組歌「四季」 作曲 瀧廉太郎
2. 混声合唱組曲 すみだがわ 作曲 池辺晋一郎 詞 大倉芳郎
受 講 料 3,500円
参加者数 236名

(2) トーク&ライブ 江戸の粋 新春寄席と吉例住吉踊り2011

期 日 平成23年1月3日（月）
会 場 江戸東京博物館 1階ホール
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
内 容
I 新春寄席 第一部
昼の部 古今亭朝太、隅田川馬石、あした順子、三遊亭小円歌
午後の部 桂才紫、三遊亭金時、あした順子、三遊亭金馬
《中入り》
II トーク
三遊亭金馬・竹内誠 昼の部・午後の部とも 「江戸東京の正月」
III 新春寄席 第二部
昼の部 三遊亭小円歌、春雨や雷蔵
午後の部 柳家小菊、古今亭志ん弥
※住吉踊りには館長以外、昼の部・午後の部出演者全員のほか
三遊亭金翔、三遊亭時松、林家ぼたんも参加して踊りを披露する。
入 場 料 2,500円（友の会会員・ボランティア 500円引き）
参加者数 481名

4 国際交流事業

平成14年度から、東京都江戸東京博物館と中国・北京首都博物館、韓国・ソウル市歴史博物館、中国・瀋陽故宮博物院（平成18年度より参加）との間で、毎年持ち回りでシンポジウムを開催してきている。

平成22年9月に北京首都博物館において行われた、第9回日中韓国際シンポジウムへ職員2名を派遣し、「博物館における社会貢献」をテーマについて発表・討議を行った。

また、平成22年11月4日から12月5日にソウル歴史博物館で開催された「ソウル 北京 東京 都市の原型と保存」展の開催に協力し、今後の交流事業のシミュレーションとすることができた。

5 えどはく寄席

日時 毎土・日曜日、祝日の11時30分～12時、13時30分～14時

客数 35,662人

中村座前で、落語、漫才、紙切り、かっぱれ、太神楽、邦楽などを実演し、伝統芸能の継承・普及と若手芸人の育成を図る。

※夏休みの催し

期間 平成22年8月12日(木)～15日(日)

客数 1,704人

内容 落語と津軽三味線、和太鼓、箏などといった邦楽器の演奏を実施。

※正月の催し

期間 平成23年1月2日(日)～10日(月・祝)

客数 8,739人

内容 獅子舞、落語、宝船などの売り声など正月らしいパフォーマンスを5階常設展示室・中村座前と1階ロビー等で行うほか、手品、パントマイム、箏、尺八等の邦楽演奏など多彩な内容で実施。また、弦楽四重奏とリアルな江戸町人の扮装をしたダンサーとの協演など、新たな試みも行った。

6 ふれあい体験教室

ふれあいボランティアが企画・運営する伝統的な文化や芸能の体験型事業や、高齢者や子供を対象とした参加型事業を実施した。

ふれあい体験教室実施数 53件

ふれあい体験教室参加者数 2,389人

〔実績一覧〕

日程	内容	人数
4月17日	ときめきキモノ体験	31
4月29日	和算のひみつ	86
5月1日	祭り茶席(両国春祭り)	28
5月1日	藍染め体験(両国春祭り)	50
5月3日	みんなで遊ぼう!昔遊び(両国春祭り)	150
5月2日	万華鏡をつくろう(両国春祭り)	50
5月9日	ときめきキモノ体験	20
5月21日	和算のひみつ	64
5月22日	歌舞伎の鳴り物をならしてみよう	222
6月5日	歴史散歩「品川の龍馬」	24
6月5日	和算のひみつ	90
6月6日	万華鏡をつくろう	30
7月11日	ときめきユカタ体験	38
7月24日	藍の生葉染め体験(小学生、ハンカチ)	15
7月24日	和算のひみつ	70
7月31日	歌舞伎隈取体験(子供)	17
8月1日	ぎやまん彫りをしよう	18
8月7日	ときめきユカタ体験	32
8月13日	和算のひみつ	167
8月14日	歌舞伎の鳴り物をならしてみよう	60
8月21日	親子でつくろうヤジロベエ	30

8月21日	ときめきユカタ体験	44
8月22日	浮世絵摺り体験	19
8月29日	万華鏡をつくろう	40
9月4日	和算のひみつ	63
10月2日	神無月体験茶席	37
10月2日	藍染め体験	50
10月3日	万華鏡をつくろう	41
10月9日	和算のひみつ	81
10月16日	ときめきキモノ体験	14
10月17日	扇子遊びをしよう	60
10月23日	歴史散歩「佃島・石川島を歩こう」	16
11月12日	江戸切子体験	11
11月13日	江戸切子体験	17
11月13日	和算のひみつ	38
11月14日	江戸切子体験	18
11月14日	歴史散歩「夏目漱石『硝子戸の中』ゆかりの景観を訪ねて」	17
11月21日	ときめきキモノ体験	24
11月27日	歌舞伎隈取体験（大人）	19
11月27日	羽根風車をつくろう	30
12月4日	ぼち袋をつくろう	47
12月11日	師走体験茶席	39
12月18日	和算のひみつ	38
1月8日	和算のひみつ	28
1月15日	ときめきキモノ体験	23
1月22日	扇子遊びをしよう	50
1月29日	節分の鬼をつくろう	32
2月5日	如月体験茶席	44
2月5日	和算のひみつ	61
2月13日	ときめきキモノ体験	20
2月20日	ぎやまん彫りをしよう	10
2月26日	浮世絵を組みたてよう	28
3月5日	和算のひみつ	38
	合計 53件	2,389

7 ミュージアムトーク

日 時 毎週金曜の16時～16時30分

回 数 計48回

参加者数 1,532人

学芸員による展示解説。企画展や特集などの特別企画の他、常設展示各コーナーにおける展示内容を詳しく紹介する。

8 博物館ボランティア

市民とのコミュニケーションを豊かにし、市民の協力や協働のもとに生涯学習社会にふさわしい市民に親しまれる開かれた博物館を目指して館の活性化を図るため、江戸東京博物館（本館）では平成9年10月1日、江戸東京たてもの園（分館）では平成8年12月4日からボランティア制度の試行実施を行

った。

本年は、本館264名、分館205名体制により、本館では9,385件のガイド、分館では茅葺き農家燻煙及び団体案内ガイド、自主活動等を行った。

(1) 本館ボランティア

① 登録人数（平成23年3月31日現在）

展示ガイドボランティア 228名

ふれあいボランティア 72名（この他、展示ガイドとの兼任36名）

合計 264名

② 活動日時

火曜日～日曜日（開館日） 10時～16時

毎日15人程度のグループで活動

③ 活動内容

日本人及び外国人来館者に対する案内、団体に来館者に対する事前案内

日本語、英語、ドイツ語、中国語、フランス語、ハンガール語、スペイン語、ロシア語

江戸東京の伝統・文化に関するワークショップ（「ふれあい体験教室」）の運営

④ 対応件数（平成22年4月～23年3月）

外国語による案内件数 3,720件

日本語による案内件数 5,433件

団体事前案内件数 25件

下見（実踏）の案内件数 1件

スポット解説 206件

⑤ ボランティア対象の研修

研修実施回数 14回

研修参加者数（延べ人数） 486人

(2) たてもの園ボランティア

① 登録人数（平成23年3月31日現在）

・正規ボランティア「ひじろ会」 205名（女性72名、男性133名）

火曜日班32名、水曜日班32名、木曜日班35名、金曜日班34名、

土曜日班40名、日曜日班32名

・臨時ボランティア 18名

② 活動日時

火曜日～日曜日及び臨時開園日 9時45分～17時（10月から3月は16時まで）

③ 活動内容

・正規ボランティア

茅葺き農家の燻煙と周辺整備…4棟

（吉野家、八王子千人同心組頭の家、天明家、綱島家）

案内ガイド（団体・見所案内・建造物ごと・定時）

たてもの園事業への参画（催事の企画・実施、学校連携事業、年中行事等）

自主活動の実施（写真場での撮影、藁細工、風車作り、紙芝居、盆栽、農園作業等）

・臨時ボランティア

たてもの園事業の支援

正規ボランティアの活動支援

④ 対応件数等

茅葺き農家の燻煙と周辺整備（休園日を除き毎日） 延べ306日

団体案内ガイド 160件 4,756人

センターガイド 20,564人

ボランティア自主活動 21種、 900回

⑤ その他

正規ボランティアは7回の勉強会と、山梨、田園調布、浦安への見学会を3回企画・実施した。

VIII 施設維持管理・貸出等

1 博物館管理運営

東京都江戸東京博物館（本館及び分館）の指定管理者として、館の円滑な管理運営を図るため、各種会議・委員会を開催した。

(1) 東京都江戸東京博物館運営委員会

館の運営及び事業活動について、広い視野から助言を得、適正かつ円滑な館運営に資するため、東京都江戸東京博物館運営委員会を設置している。

また、常設展示・企画展示に関して、改善を含めた運営全般についての的確な助言を得るため、運営委員会に常設展示専門部会と企画展示専門部会を設置している。

○ 平成22年度東京都江戸東京博物館運営委員会

常設・企画展示専門部会合同会議

日 時 平成23年3月18日（金）14時30分から16時30分まで

場 所 事務棟2階 会議室

- 内 容
- 1 東京都江戸東京博物館運営委員会会長の選出について
 - 2 常設展示専門部会会長及び企画展示専門部会会長の指名について
 - 3 22年度事業実績（平成23年2月末現在）について
 - 4 23年度事業計画及び予算について
 - 5 江戸東京博物館常設展示室リニューアルの検討状況について

※ 上記により開催予定であったが、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、中止となった。

○ 東京都江戸東京博物館運営委員会委員（平成23年3月現在）

- | | | |
|-----|---------|---------------------|
| 委 員 | 藤 森 照 信 | （工学院大学教授）★ |
| 委 員 | 上 山 信 一 | （慶応大学教授）★ |
| 委 員 | 佐 藤 一 子 | （法政大学キャリアデザイン学部教授）★ |
| 委 員 | 陣 内 秀 信 | （法政大学デザイン工学部教授）★ |
| 委 員 | 成 田 龍 一 | （日本女子大学教授）★ |
| 委 員 | 吉 原 健一郎 | （成城大学名誉教授）★ |
| 委 員 | 山 本 与志春 | （青山学院中等部長）★ |
| 委 員 | 久保田 福 美 | （杉並区立高井戸小学校長）★ |
| 委 員 | 熊 倉 功 夫 | （静岡文化芸術大学学長）☆ |
| 委 員 | 坂 本 光 一 | （元東京都教育委員会教育長）☆ |
| 委 員 | 段 木 一 行 | （元法政大学教授）☆ |

○ 東京都江戸東京博物館運営委員会常設展示専門部会委員（平成23年3月現在）

- | | | |
|-----|---------|------------------|
| 委 員 | 薄 井 和 男 | （神奈川県立歴史博物館学芸部長） |
| 委 員 | 染 川 香 澄 | （こども博物館研究者） |
| 委 員 | 田 中 俊 行 | （空間デザイナー） |

委員 土岐島雄（東京大空襲・戦災資料センタースタッフ）
委員 吉見俊哉（東京大学大学院教授）
上記運営委員会委員のうち、★印の委員

○ 東京都江戸東京博物館運営委員会企画展示専門部会委員（平成23年3月現在）

委員 市村佑一（江戸川大学学長）
委員 伊東孝（日本大学教授）
委員 川本三郎（文芸・映画評論家）
委員 越澤明（北海道大学大学院教授）
委員 峰岸純夫（東京都立大学名誉教授）
上記運営委員会委員のうち、☆印の委員

(2) 外部評価委員会

当該年度の事業実績につき、設定目標が効果的に実行されているか館内部において自己評価し、事務改善に結び付けるために内部評価を行うとともに、その内部評価による事業実績報告について、客観的な視点から、検証を行うため外部評価委員会を設置している。

当該年度末までの事業実績を評価の対象とするよう改善をはかり、最終の委員会は年度明けの4月に開催することとした。

○ 平成22年度東京都江戸東京博物館外部評価委員会

第1回

日時 平成22年7月2日（金）午後2時から午後4時
場所 事務棟2階 会議室
内容 1 平成21年度外部評価総合評定について
2 平成22年度事業計画について

第2回（開催予定）

日時 平成23年4月22日（金）午後2時から午後4時
場所 事務棟2階 会議室
内容 平成22年度外部評価 評定について

○ 東京都江戸東京博物館外部評価委員会委員（平成23年3月現在）

委員長 段木一行（元法政大学教授）
委員 松尾正人（中央大学教授・副学長）
委員 松田幸雄（㈱TBSサービス 常務取締役）
委員 半田昌之（たばこと塩の博物館学芸部長）
委員 松原良（江戸東京博物館友の会会長）

○ 平成22年度東京都江戸東京たてもの園外部評価委員会

第1回

日時 平成22年6月24日（木）午後2時から午後4時
場所 江戸東京たてもの園 会議室
内容 1 平成21年度外部評価 評定について
2 平成22年度事業計画一覧について

第2回（開催予定）

日時 平成23年4月25日（月）午後1時30分から午後3時30分
場所 江戸東京たてもの園 会議室
内容 1 平成22年度外部評価 評定について

2 平成23年度事業計画一覧について

○ 東京都江戸東京たても園外部評価委員会委員（平成23年3月現在）

- 委員長 藤 森 照 信（工学院大学教授）
- 委員 馬 場 憲 一（法政大学教授）
- 委員 段 木 一 行（元法政大学教授）
- 委員 渡 辺 博（小金井市教育委員会生涯学習部長）

(3) コンソーシアム運営協議会

コンソーシアム構成団体間において、館の運営に関する基本事項及び重要事項の協議・決定を行う機関としてコンソーシアム運営協議会を設置し、(公財)東京都歴史文化財団グループの代表団体として、鹿島建物総合管理（株）及びアサヒビール（株）三者間の総合調整を行った。

○ 平成22年度コンソーシアム運営協議会

第1回

- 日 時 平成22年7月15日（木）14時から15時まで
- 場 所 事務棟2階 会議室
- 内 容
 - 1 平成21年度運営実績報告及び決算について
 - 2 平成22年度東京都江戸東京博物館指定管理者共同連合体協定書第9条に係る覚書について
 - 3 平成22年度コンソーシアム運営方針（案）について

第2回

- 日 時 平成23年3月11日（金）14時から15時まで
- 場 所 事務棟2階 会議室
- 内 容
 - 1 平成23年度事業運営方針について
 - 2 平成23年度休館日について
 - 3 平成23年度コンソーシアム運営方針（案）について

2 本館維持管理

東京都江戸東京博物館の施設・設備及び物品の維持管理、観覧料等の徴収事務、利用者サービス業務等を行った。

また、「東京都江戸東京博物館条例」に基づき、江戸及び東京の歴史と文化の振興に資する講演会、講習会、研究会、鑑賞会等を実施する団体に対し、ホール376件、会議室304件、学習室1 417件、学習室2 390件、企画展示室284件、その他の施設227件を貸出した。

3 たても園維持管理

江戸東京たても園の施設・設備及び物品の維持管理、観覧料等の徴収事務、利用者サービス業務等を行った。

4 野外収蔵（庭園保全管理）

江戸東京たても園内の庭園保全のため、植栽の維持・管理業務等を行った。

5 AVシステムの運営

「館内CATV」「文字ディスプレイ」及び「展示解説システム」により施設・催事案内や常設展示の解説を行うとともに、「映像ホール」「映像ライブラリー」において江戸東京に関連する映像ソフトを提供した。

「映像ホール」では、企画展や季節に合わせた館蔵映像資料のプログラム上映を行った。また、

学校団体などへの事前ガイドや視察時の会場、特別展関連講座の会場、えどはくカルチャーの会場として使用した。

なお、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う修繕工事により、3月12日から4月30日まで臨時休館となったため、各実績については平成22年4月1日から平成23年3月11日までのものである。

(1) 映像ホール

入場者実績 22,947人

	利用目的	内 容	入場者実績
1	ボランティアガイド	学校団体等に対して、入館前に館の概要等をボランティアより説明	4,747人
2	視察対応	外部団体や大学、海外要人・機関などへの館概要説明	1,114人
3	展覧会関連	特別展関連映像の放映や友の会等への展示内容説明	220人
4	えどはくカルチャー	館事業「えどはくカルチャー」会場として利用	518人
5	学校団体等対応	当日来館された団体に対して常設展や館内の案内映像を放映する。	429人
6	企画上映	特別展・企画展に関連した映像や季節にふさわしい映像を放映。	15,919人

(2) 映像ライブラリー

設置ブース数	14台 (14人利用可)
映像ソフト数	495タイトル (平成23年3月31日現在)
入 場 者 数	17,973人 (平成22年4月1日～平成23年3月11日)

(3) 収蔵庫からのメッセージ

設 置 台 数	5 台
映像入力数	38,288枚 (内24,993枚公開) (平成23年3月11日現在)

(4) Web版収蔵庫からのメッセージ

公開画像数	23,538点 (平成23年3月31日現在)
-------	------------------------

IX 広報事業

1 本館

種 別	名 称	実 績
館内案内	江戸東京博物館案内パンフレット	日本語版 392,000部 英語版 68,000部 中国語版 6,500部 ハングル語版 42,000部 スペイン語版 12,000部 フランス語版 8,000部
定期刊行物	江戸東京博物館ニュース	年4回発行 延280,000部
取材対応		455件 ※申請件数に基づき取材対応を行った件数
インターネット ホームページ	日本語版、英語版、中国語版、 ハングル版 キッズサイト	アクセス件数 8,484,258件
メールマガジンの 配信	江戸東京博物館ニューズレター	年12回配信 57,218通
広告の掲載	すみだTOWN情報紙アベニュー 「博物館研究」 来来まっふる東京 京浜急行羽田空港駅サインボード 東京スカイツリー羽田空港プロモーション	年12回掲載（インフォメーション） 年12回掲載 平成22年6月末日発行 平成22年10月から1年間 平成22年11月17日～19日

2 分館

種 別	名 称	実 績
館内案内 ガイド	江戸東京たてもの園 案内リーフレット	227,000部
定期刊行物	たてもの園だより	年2回 延60,000部
	イベント案内	年4回 延380,000部